

ハンドボール 戦評用紙

大会	全国高校総体県予選				性別	女子
日時	令和 4年 6月 19日 (日)				決勝	
会場	三郷市総合体育館				THROW-OFF	11 : 00 ~
審判	羽角 健二				石橋 正行	

チーム名	total	total	チーム名
埼玉栄	29	23	浦和実業

戦 評

ここまで他を寄せ付けない強さで勝ち進んできた両校が、いよいよ最後の大一番を迎える。直近の対戦は昨年11月末に行われた新人大会決勝戦。その時は、浦和実業が前半の4点差を覆して、1点差の逆転勝利を収めている。拮抗していた実力は、あれから5か月を経てどうなったか。先制点は浦和実業。速攻から8番坂本が右サイドシュートを決める。すぐさま埼玉栄10番小山がロングシュートで取り返す。序盤の流れは僅差で埼玉栄か。20番若谷の右サイドシュート、11番櫻井のポストシュート、そしてフォーメーションプレーなど、多彩な攻撃で得点を重ねる。対して浦和実業は攻撃の精細さに欠ける。枠を外したシュートや速攻ミスが目立つ。そんな中、2番岡田がステップシュートにロングシュートに、チームを引っ張る活躍を見せる。しかし、埼玉栄は19番井上などの上からのシュートが強く、それにDFが釣られれば、今度は11番櫻井にポストパスを通す。浦和実業は7番土屋が速攻の得点で食い下がるも、埼玉栄キーパー田中の好セーブに阻まれる場面も多く、前半は5点差で折り返す。後半立ち上がり、浦和実業は3番大森のカットイン、キーパー穴澤の好セーブで追い上げに掛かるも、埼玉栄の流れを断ち切るまでには至らない。点差を縮められないまま時間だけが過ぎてゆく中、浦和実業は要所で7人攻撃を駆使して逆転を図る。しかし、埼玉栄は安定したプレーを崩されることなく、前半の点差を維持し続け、そのままゲームセット。4年連続13回目の優勝を飾った。

戦評記入者

高橋 凜太朗